

## 第1部

# セサン スレポック セコン

# 今昔物語

ダムが変えた村びとたちの暮らし

## セサン・スレポック・ セコン川

東南アジアの一国、カンボジアの中心には、大河メコンが流れています。メコン河は中国、ビルマ（ミャンマー）、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムの6か国を順に流れ、南シナ海に注ぎます。

セサン・スレポック・セコン川は、メコン河の支流です。「支流」と言っても長大な川で、しかもそれぞれ二つの国をまたぐ国際河川です。セサン川とスレポック川はベトナム、セコン川はラオスに源を発し、カンボジア北東部へと流れ、メコン河に合流します。



もっと知りたい!

カンボジアの地勢

P.45



3SPN 提供

写真見開き 5. 水の声 / 左上・スレポック川/右上・セサン川

# カンボジア北東部の漁業資源

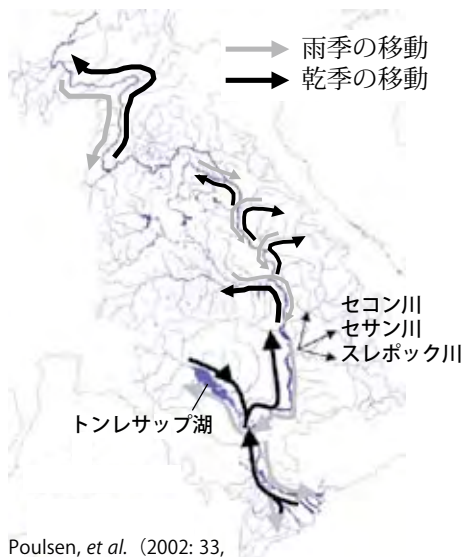
もっぴいと  
知りたい!

メコンの魚の回遊

P.48



TERRA 提供



Poulsen, et al. (2002: 33, 36, 39) をもとに作成。

セサン・スレポック・セコン川があるメコン河下流部は漁業資源が豊かなことで知られています。この地域では、たくさんの魚が国境を越えて、周期的に行き来しています。

例えば、ほとんど雨が降らない乾季になると、カンボジアの中央にあるトンレサップ湖を出て、メコン河本流に向かう魚がいます。これらの魚は、水位が低い時期はカンボジアのメコン河本流で過ごします。そして雨季に入ると雨が降り、水位が上昇しはじめるとセサン・スレポック・セコン川へ移動し卵を産むといわれています。

ここから先は、三河川より下流に位置するメコン河の支流や、メコン河中流部のタイやラオスなどへ移動して、最終的にはトンレサップ湖に戻っていきます。こうして通年枯れない湖や淵、早瀬などで乾季の乾燥を避けたり、雨季に川の水量が増すことによりできる氾濫原で、餌を得て成長したり、産卵したりしているのです。

このような魚の回遊は、メコン河下流部のみでなく、メコン河流域全体で見られます。重要な生息地を保全し、また魚の移動ルートをふさがずにおくことは、メコン河流域の豊かな漁業資源を維持し、流域に住む人びとの食糧安全を保障するために非常に重要であると考えられています。



TERRA 提供





TERRA 提供

## 川に生きる

### 先住・少数民族

セサン・スレポック・セコン川が流れるカンボジア北東部は、ラタナキリ州、モンドルキリ州、ストウントレン州からなります。

三河川の川沿いには、約6万人の人びとが暮らしています。カンボジアの人口の約90%はクメール民族ですが、三河川の流域に住む村びとたちの多くは、むかしから川とともに生きてきた先住民族、少数民族の人びとです。

ラオ族、ジャライ族、カチヨーク族、タムプアン族、ブロー族、クルン族、カベット族、華人、ラオデウム族、プノン族といった人びとが暮らしています。それぞれ独自の生活様式と文化、言語を持っています。



もっと知りたい!!

カンボジアの地勢

P.45

# 川のほとりの暮らし

川沿いで生きる人びとにとって、川と川周辺に生い茂る森は、生活に必要なものすべてを手に入れることができる特別な場所です。

川で豊富に捕れる魚は、村びとにとって重要な食糧であり、また収入源でもあります。魚は、水位が低い乾季には「淵」と呼ばれる川の深みでじっとしています。水位が上がると淵から出て移動しはじめます。村の漁師たちは淵に名前を付け、その位置や大きさ、季節ごとの魚の動きを熟知しています。

捕った魚は煮てスープにしたり、焼いたりして食べます。また細かく刻んで塩漬けにし、発酵させて、「プラホック」を作ります。プラホックは料理の味付けやソースなどなんにでも使います。

Oxfam America 提供



3SPN 提供



上・籠いっぱいの小魚でプラホックを作る。  
下・さまざまな種類のプラホック。



さまざまな種類の漁具が使われる（左・中、3SPN 提供）。



3SPN 提供



5



3SPN 提供



TERRA 提供



3



4

Cyndy Godden 提供

1. セサン川／2. 野生の植物。ブラホックをつけて食べる。／3. みんなで筍(たけのこ)の皮をむく。／4. 薬草を摘む。／5. 森で採れた果物。

乾季に川の水が減ることによって現れる川辺の土地は、村びとのたいせつな農地です。雨季の間は、田んぼでお米を作ります。お米は村の人びとの主食です。チャムカ(焼畑)では豆やトウガラシ、トウモロコシなど、さまざまな野菜を作ります。お米も育てます。

できたお米や野菜はおもに家族で食べますが、あまった分は物々交換に使ったり、市場に売ったりもします。



Oxfam America 提供

上・左下・河岸で野菜を育てる。右下・田んぼ



森や川辺からは、貝やきのこ、野生の野菜や薬草を、籠いっぱい集めることができます。家や道具の材料も得ることが出来ます。

川の資源は村びとみんなにとってたいせつな共有物です。なくなってしまうほど、とりつくすことはありません。



TERRA 提供

川は人びとの伝統的な交通手段でもあります。住民は、漁業、村と田畑の往復、村と村との行き来など、日常的に川を使って移動します。村びとの多くは、一本の丸太をくりぬいてできる丸木舟を使います。

水汲みや料理、洗濯は女性の仕事です。

人びとは川で泳ぎ、洗濯をし、水浴びをします。川は飲み水や料理に使うこともあります。市場で売するために飼っている牛やにわとり、豚にも川の水をやりませう。



TERRA 提供



3SPN 提供



Oxfam America 提供

村びとたちの文化や伝統は、地域の自然に根ざしています。川や森には精霊が住むと古くから信じられてきました。人びとは精霊を恐れ、感謝し、それを祀りなだめる儀式や言い伝えをたいせつに守ってきました。



上・生贄の水牛を捧げる場所。  
中・精霊に水牛を捧げる儀式。  
下・祭りの祝い酒（すべて3SPN提供）。

しかしこのような村びとの暮らしは、今、危機に面しています。





## セサン川の異変

もっと知りたい!!  
カンボジアへの影響  
〜セサン川の場合〜  
P.59

最初に変わったのはセサン川でした。

セサン川沿いに住む人びとは、川の水の増減、そして洪水は、川の自然な周期の一部であると考えてきました。つまり、乾季の間は川の水は少なく、雨季に雨が降れば水位が上がり、雨が止めば次第に下がったのです。

しかし1996年、住民の伝統的な知恵をくつがえすような不思議な大洪水が起こりました。その年の9月に上流部で大雨が降ったにもかかわらず、洪水は約1か月遅れてやってきました。しかも数時間で急激に水位が上昇し洪水になったのです。

これ以降、激しい洪水や高波は頻繁に起こるようになりました。洪水は人や家



Cyndy Godden 提供



3SPN 提供



3SPN 提供

畜を溺死させ、農作物や住民の資産を破壊しました。チャン村では、3才の女の子と母親が川で洗濯していると、急に高波が押し寄せ、女の子をさらって行ってしまいました。女の子はいまだに行方不明のままです。

川の水位はおかしな動きをするようになりました。1日の間に数10センチも上下することもあれば、数日安定したあと、突然数メートル上昇することもあります。漁の名人でも「川が読めなく」なってしまうました。漁具を水の中に仕掛けて朝見に行くと、水位が大きく下がっていて、何もかかっていない漁具が水の上にゆれていることがあります。舟や網が激しい急な流れに押し流されることもあります。漁や舟での移動は難しくなりました。

乾季の間も水位の異常な変動は続きました。また、川の水の量は増えました。そして砂州や水辺に巣を作る鳥や、卵を産むトカゲなどの野生動物が消えてゆきました。その一方で、川が完全に干上がったときもありました。川底があらわになり、まるで砂漠のようでした。



3SPN 提供

頻繁に起こる水位の変動が河岸の下の部分を洗い流し、畑だった河岸は脆くなり、崩れ落ちてゆきました。人びとは川辺で農業を行うことが難しくなりました。

川底や淵が砂で埋まり、豊かな流れだったところに砂州ができました。魚が消え、以前は籠にいっぱい採れた野生の野菜や貝、きのこも少なくなりました。

川の水は濁り、乾季には悪臭がすることもあります。飲むとぐあいが悪くなりました。変な泡が流れてくるようになり、川に入った子どもが激しいかゆみに泣き叫ぶこともありました。村びとは、下痢、腹痛、のどや鼻の痛みやかゆみ、めまい、吐き気、咳、発疹などの問題を抱えるようになり





3SPN 提供

ました。家畜にも同様の被害が広がりました。

川のほとりの人びとは生計手段を失い、食べものを町の市場で求めるようになりました。そして借金を背負う人びとが増えていきました。

すべては変わってしまったように見えました。

「川が怖い」と人びとははじめて思いました。

「川は貧しくなった」と人びとは言いました。

問題が起こりはじめた当初、川沿いの人びとは精霊の怒りが川の異常を引き起こしていると考えました。しかし川の異変は人工的なものだったのです。



3SPN 提供



3SPN 提供

セサン川は、堰き止められています。

## ヤリ滝ダム

はるか上流のベトナムで、水力発電ダムが建設されていたのです。

雨季の間も、乾季の間も、川の水は堰き止められては放水されました。ベトナムの電力需要に応じて、水流でタービンを回して電気を作るために利用されているのです。

下流カンボジアへの影響はまったく考えられませんでした。

1993年に建設されたこのダムは、「ヤリ滝ダム」と呼ばれています。さまざまな援助国・機関の支援によって、ベトナム政府が建設したのです。

もっと  
知りたい!

ヤリ滝ダム事業

P.51



## セサン保全ネットワークの誕生

ヤリ滝ダムの影響を受けた村びとたちは NGO の支援を受けて、2001年、問題を解決するために立ち上がりました。「セサン保全ネットワーク」の誕生です。ネットワークに参加する村は増えつづけ、数年後にはラタナキリ州の川沿いの全村が集結し、ネットワークは地域住民の声を代表する組織へと発展しました。村びとを支援する国内外の NGO も増えはじめました。

さらにその数年後には、スレポック川とセコン川流域の人びとも住民ネットワークの活動に加わり、団体の名前も地域の3つの川を守る「セサン・スレポック・セコン保全ネットワーク」に変わることとなります。

村びとたちの要望は一貫しています。川の自然な流れを回復させること、これ以上ダムを造らせないこと、村びとの生計や農作物、家畜などが被った損害を補償してもらうことです。



村びとの会合の様子 (右列も、すべて 3SPN 提供)。

村びとたちはカンボジア政府に、状況改善のためにベトナム政府と交渉するよう求めました。メコン河委員会には、国境を越えたダムの問題を解決するように求めました。メコン河委員会とは、メコン河流域の川の利用や保全について、流域の国々が協力するために作られた国際機関です。ベトナムとカンボジアはメコン河委員会の加盟国です。また、ベトナムのダム開発を支援する援助国や世界銀行などの国際機関にも、ダムによる環境と生活への影響、そして不安を訴えました。世界銀行は「世界の貧困削減」をその活動目的に掲げる国際金融機関です。

訴えを受けてメコン河委員会は、カンボジアとベトナム政府に働きかけました。この結果、2つの国がセサン川の問題を話し合う委員会が設立されました。住民たちは、ダム開発の関係者を、国レベル、地域レベルの対話に巻き込みはじめたのです。

もっと知りたい!

セサン・スレポック・セコン保全ネットワーク

P.79



Oxfam America 提供

もっと知りたい!

村人の要望、関係者の対応

P.76

## 政府・国際機関の対応



村人の要望、関係者の対応

P.76

2001年から2003年の間に、ベトナムとカンボジア政府の委員会は会合を3回持ちました。しかしベトナムは自国に有利な形でダム開発を進める意思が固く、一方カンボジアは、政治的にも経済的にも強い立場にいるこの隣人と対決することに消極的でした。メコン河委員会は、この2か国の間の力関係を調整し、河川管理を行うという役割を果たしませんでした。住民からの苦情に直接対応することもありませんでした。



越境する環境被害を防ぐための枠組み

P.70

また、日本をはじめとする援助国や国際機関は、ダム開発の計画作りや、個別ダム事業を準備する際の調査、送電線の整備などを通じて、ベトナムのダム開発を長年にわたって支援してきました。しかし世界銀行や北欧の援助機関は、村びとの抗議や懸念の声に対して、「私たちはダムを造ったわけではなく、直接の責任はない」と述べています。

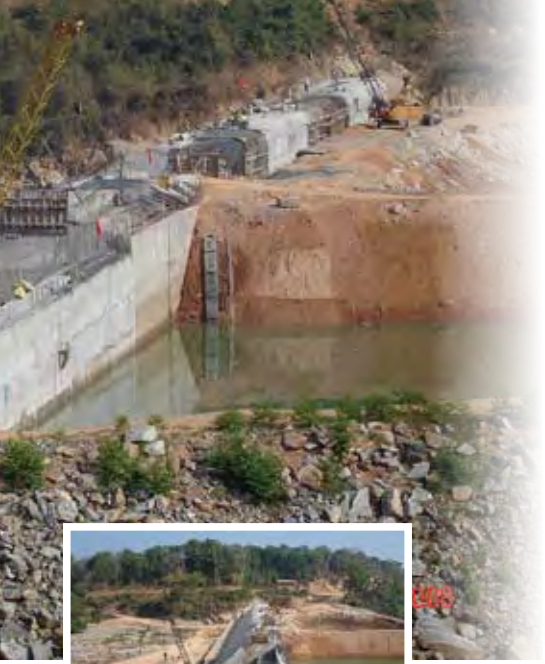
## 加速するダム開発



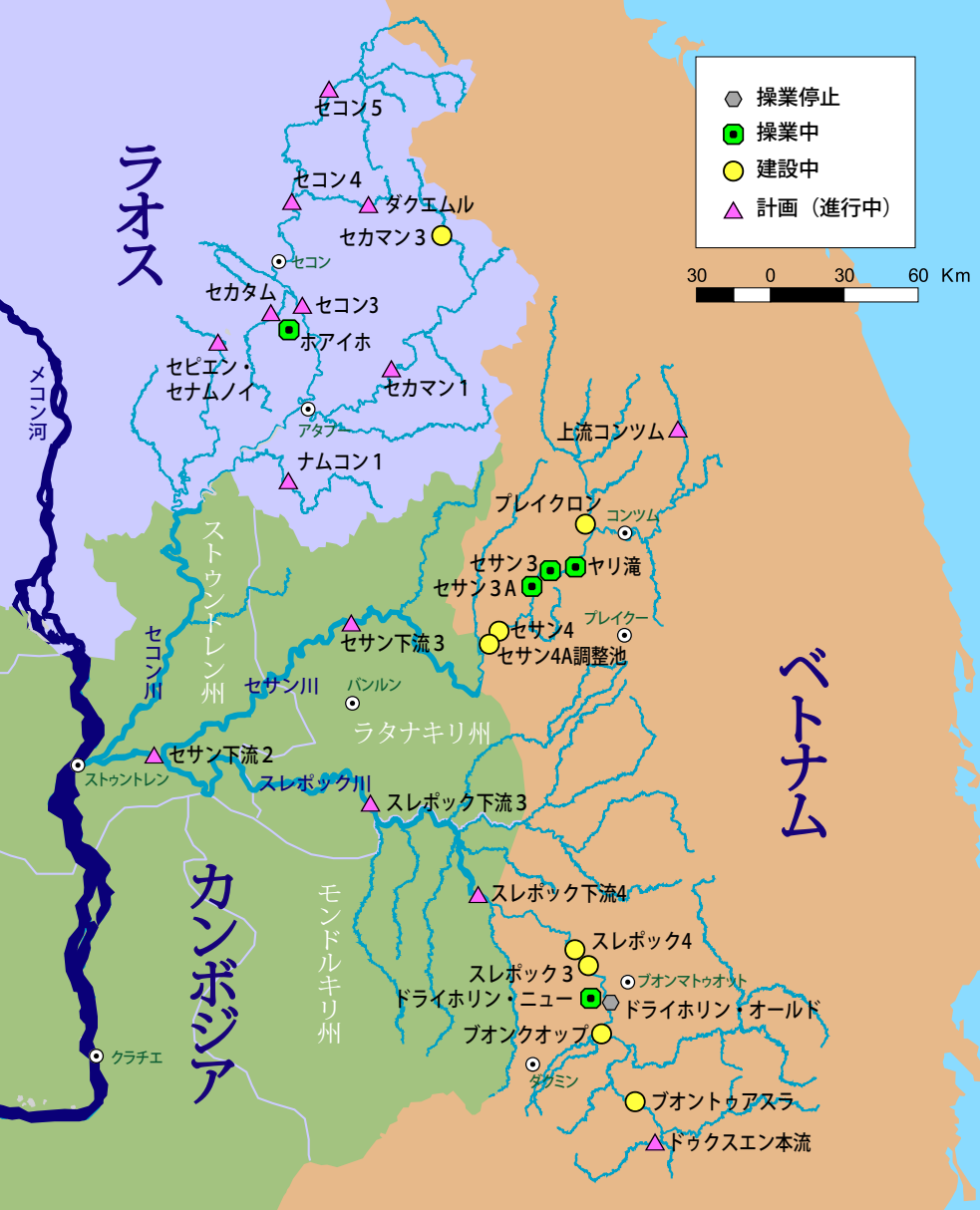
三河川のダム開発

P.50

セサン川ではダム開発が着々と進みました。現在ベトナム側のセサン川では、ヤリ滝ダムをふくむ3つのダムが操業中、2つが建設中、さらにもう1つのダム計画が進行しています。



セサン4A調整池(3SPN)



Oxfam America East Asia Regional Office (2005)、SWECO Grøner (2006a、2006b)、PECC-1 & KCC (2008) をもとに作成。セサン下流1、プレクラン1A、プレクラン1、プレクラン2（セサン川流域）、セカマン4、ナムコン2、ナムコン3、ホアイラムパンヤイ、セコン（セコン川流域）の位置は未確認。

地図1 三河川のダム開発

もっと知りたい！  
環境影響評価は問題回避に貢献しているのか？  
P.72

これらのダム事業には、環境への影響を少なくするためとして、援助国の支援によって「環境影響評価」と呼ばれる調査が行われたものがいくつもあります。しかしこれらの調査は、ダムによる下流カンボジアへの越境影響を完全に無視するか、あるいは適切に検討しませんでした。

ダム開発の波はスレポック川とセコン川にもおよんでいます。ベトナム側のスレポック川には操業中または建設中のダムが5つもあり、ラオス側のセコン川では操業中、建設中のダムが1つずつ、進行しているダム計画が少なくとも12もあるのです。





左・中・浸水した建物／右・洪水で大打撃を受けた稲（すべて 3SPN 提供）。

## 長引く苦しみと

## 出口の見えない不安

2004年からはスレポック川でも、セサン川のような被害が起こりはじめました。

もっと知りたい！！

カンボジアへの影響  
～スレポック川の場合～

P.68

2005年から2006年にかけて、とうとうベトナムは、村びとが長年求めてきたカンボジアのセサン川とスレポック川の調査を行いました。この調査では、上流ベトナムのダムが引き起こした数々の問題が確認されました。そして村びとが待ち望んでいた緩和策と補償への道のりが提案されたのです。

しかしこの提案は、2008年に開かれたカンボジア・ベトナム両政府委員会の第4回会合の場で、十分話し合われることはありませんでした。次の会合は1年後です。緩和策や補償はほんとうに実施されるのでしょうか？

もっと知りたい！！

村人の要望、関係者の対応

P.76

一方で、こんどは住民の足もと、カンボジア側のセサン川に2つのダムを造る計画が進んでいます。カンボジア政府がベトナム政府の提案を受け入れ、ダム事業を合同で行うことになったのです。ダムが建設されることになれば、その電力はカンボジアとベトナムの両方で使われる約束になりました。そしてセサン川とスレポック川沿いに住む数千人の人びとは立ち退かされ、またこのダムから上流に住むカンボジアの人びとは、ベトナムのダムとの間に挟まれることとなります。



もっと知りたい！！

セサン下流2ダム

P.54

建設予定地周辺にある島。右下の白い部分は、ベトナムの調査団がセメントでつけていった印。



ニョーン・ブンチャンさん  
ラタナキリ州タベン郡タベンラー集合村  
タベン村（セサン川沿いの村）在住  
（2008年6月）

お願いがあります。いろいろな国で、NGO  
だけでなくふつうの人たちも、わしらといっ  
しよに解決策を探してほしい。この川のほとり  
に住む村びとが、自然の恵みを子々孫々まで受  
けられるように助けてください。お願いします。

カンボジアの三河川の住民たちは、いつの日が自分たちの声に耳が傾けられ、川の自然な流れが回復されることを願って、ダム開発に反対するキャンペーンを続けています。村びとたちの訴えは、すでにメコン河委員会、そしてカンボジアとベトナム両国の首相にまで認識されていますが、ダム開発の被害は広がるばかりです。

セサン・スレポック・セコン川の個別ダム事業は、おもにベトナムなどの新興国の自己資金で行われています。しかし、日本もこれと無関係ではありません。カンボジア、ラオス、ベトナムは先進国や、世界銀行、アジア開発銀行から毎年多額の経済援助を受けていますが、この3国に一番多く援助をしているのは日本政府なのです。また、日本政府はアジア開発銀行の最大の出資・拠出国であり、世界銀行ではアメリカ合衆国に次いで第2位の出資・拠出国でもあるのです。さらにメコン河委員会にも資金を提供しています。

もっと知り  
たい!

おわりに  
、日本とのかかわり、

P.85



3SPN 提供

セサン川の住民がやり滝ダムの影響に苦しむようになって、今年で12年が経ちました。ラタナキリ州のセサン川沿いの村では川の異常な流れによる被害から逃げるために、生命（いのち）である川から遠く離れた山岳地に移る人びとも出ています。